



オンライン参加者と主会場の様子



講師の平林有里子氏

消費生活相談について学ぶ 障害者110番事業研修会

10月29日(水)、障害者110番事業研修会が開催され、AP東京八重洲(東京都中央区)を主会場に、オンラインで全国の参加者とながり、消費生活相談をテーマにした講演とグループワークを行いました。参加者は会場・オンライン合わせて44名の方が集いました。

障害者110番事業研修会は、全国に設置されている障害者110番相談窓口や障害関係団体の担当者を対象に、中央障害者社会参加推進センターが年に1度開催しています。

令和7年度は、「最近の消費生活相談の傾向と地域における、消費者の安心・安全を守る取組」と題して、消費者庁の平林有里子氏(地方協力課政策企画専門職)を講師に、講演を行いました。

全国858カ所の消費生活センターでは、3349名の消費生活相談員が日々相談にあたっており、年間に寄せられる相談は約90万件にのぼります。

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
<https://www.nissinren.or.jp>
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

第71回日本身体障害者福祉大会 せんだい大会の参加申込がスタート!

令和8年度は仙台市 仙台サンプラザにて、第71回日本身体障害者福祉大会せんだい大会が開かれます。大会では、「都道府県・市町村組織などの活性化」をテーマとした意見交換会、大会式典、今村文彦氏(東北大学副学長、津波工学教授)による講演会(テーマ「地域共生社会と防災を考える ―障害当事者団体等の役割―」)を通じて、障害者の自立と社会参加を積極的に展開、発展させ、その福祉の増進を図ることとしています。

なお、大会の参加申込については、仙台市障害者福祉協会より届く案内をご確認ください。みなさまのご参加をお待ちしています。

開催日 令和8年6月17日(水)~6月18日(木)

会場 仙台サンプラザ
(宮城県仙台市宮城野区榴岡五丁目11-1)

主催 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会
東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会

主管 社会福祉法人仙台市障害者福祉協会

それらの相談は「全国消費生活情報ネットワークシステム(2025年10月1日現在)パイオネット」と呼ばれるデータベースに集約され、蓄積された情報は全国の消費生活センターの相談支援等に活用されるだけでなく、国の消費者行政の大切な基盤となります。

講演では、最近の消費者トラブルの傾向とともに、障害のある消費者に対する具体的な事例も紹介されました。平林氏は「『トラブルに遭ったのは自分のせい』『恥ずかしい。誰にも知られたくない』と感じる被害者が多く、相談することを避ける傾向がある」として、参加者に対し「誰でも被害者になりうることを前提に、相談者に寄り添っていただくとともに、被害を広げないためにも、地域の消費生活センターに相談いただく(パイオネットで消費者問題の実情把握がされる)ことが非常に重要」と強調されました。

後半は7グループに分かれてグループワークを行い、事例をもとに相談対応について検討が行われました。加えて、地域で組織されている消費者安全確保地域協議会(消費生活センターが中核となり組織されている、消費者の地域見守りネットワークとも呼べるもので、例えば警察、弁護士会、民生委員、基幹相談支援センターといった機関などから構成されている)について、所属する障害者団体でもこうした協議会に積極的に参画していく重要性が確認されました。

各グループの発表を踏まえて、阿部一彦会長は、「消費生活相談員の方は、必ずしも障害のある方の状況に明るいわけではない。障害の特性ゆえに被害に遭う状況や、相談につなげることの困難さについて考える時、私たちとセンターが連携して取り組むことに大きな意味がある」と述べました。